

元気な関西、元気な日本の構築に向けて



岩谷産業株式会社
代表取締役社長

牧野 明次

関西国際空港は、2007年8月に第2滑走路が供用され、わが国初の本格的24時間運用の国際ハブ空港として、一層重要な役割を担っている。東アジア経済圏と北米、欧州の中継点として、関空は、アジア域内からの航空貨物を北米や欧州に送る為の格好の地理的条件を備えており、人・物の流れの拡大にともない、アジアの玄関口として、関空に寄せられる期待は日を追うごとに大きくなっている。

昨年の夏以降、世界を襲った金融恐慌は、100年に一度と云われる規模で瞬く間に広がり、日本経済にも深刻な影響を与えている。

原油の異常な高騰と急激な円高による景気悪化が進む中、航空業界も国内利用者数や外国人観光客の減少に加え、ビジネス出張の激減など、厳しい状況におかれている。

しかし、優れた技術力を有する「ものづくり立国」として、日本は、大きなマーケットと生産力を有し、独自の自然や歴史的な建物、観光拠点、ファッションなど、世界から「クールジャパン」と称される大きな魅力を備えている。関西臨海地域は、パネルベイと呼ばれ、シャープ、パナソニック、三洋など、液晶、プラズマ、太陽電池の世界的な製造拠点が点在し、これらの工場の稼働率アップにより、人や物の流通が大幅に増大することが予想されるなど、将来に向け期待は広がっている。

村山社長には、かねてより大変お世話になっているが、中でも、関西空港内に開設した『関西空港水素ステーション』は印象深い。当社は2007年5月に、経済産業省の「燃料電池システ

ム等実証研究』の一環であるJHFCプロジェクトとして、このステーションを開設したが、これは水素の需要増とともに進化・対応できる拡張可能なサテライト型水素ステーションである。ここでは、燃料電池自動車・水素自動車、燃料電池アシスト自転車等の移動体の運用と、非常用移動電源車の実証試験を行っており、使用する水素は、三年前に関西電力さんと一緒に立ち上げた日本最大の液化水素プラント「(株)ハイドロエッジ」(堺市)から供給している。欧州では、既にドイツのミュンヘン国際空港などが究極のクリーンエネルギーである水素を利用したエコ空港として有名であるが、わが国では関空が低炭素社会到来に備え、いち早く実証を行っている。

本年2月に京都で行われた『第47回関西財界セミナー』で採択された宣言には、『関西は世界の中のKANSAIとして確固たる存在感を示す』『関西ブランドを育て魅力ある地域作りを行う』『関西空港に関わる諸問題の解決や道路・港湾の早期整備を図る』『外国人観光客の誘致拡大やイノベーションに向け、産学官の連携体制を構築する』等の文言が組み込まれた。

関西財界では、5月に関西経済連合会と関西経営者協会が統合される予定で、これまで以上に産学官が一体となって、「元気な関西」「元気な日本」の構築に向けて取り組みを強化することとなる。関西を愛する者のひとりとして、関空が、東アジアを代表する世界に冠たるハブ空港の役割を担い、益々発展拡大するよう願ってやまない。